

4月は作物の生育が進むとともに病害の感染も本格化するため、重要な防除時期となります。特に本年は1月から暖冬傾向であり、作物の生育が早まる可能性があります。適期防除できるように計画的に管理作業を行い、園内の生育状況をよく観察して散布時期を逃さないようにしましょう。

#### <露地カンキツ>

##### ○そうか病対策

新葉の展葉初期（最も伸びた新梢が1cm程度の時期）はそうか病の重要な防除時期です。デランフロアブル1,000倍を散布しましょう。展葉初期はマシン油乳剤との混用も可能なので、ミカンハダニが発生している園ではマシン油乳剤200倍を加用してください。

ただし、かぶれ等の問題でデランフロアブルを使用できない場合は、ストロビードライフロアブルを散布します。単剤散布する場合は2,000倍、マシン油乳剤200倍を混用する場合は3,000倍で散布してください。

##### ○かいよう病対策

かいよう病の発生を防ぐためには、3月～5月の防除が重要です。罹病性品種の中晩柑類や、温州ミカンでも高糖系温州ミカンや前年にかいよう病が発生した園、幼木園、高接園等では、4月中下旬（展葉盛期）にクレフノン200倍を加用した銅水和剤（コサイド3000 2,000倍、フジドーLフロアブル1,000倍）またはアビオンE1,000倍を加用したICボルドー66D60倍を必ず散布します。

また、罹病葉や罹病枝は可能な限り除去します。罹病枝で除去できない場合は病斑部を削り取り除きます。

#### <ハウスミカン>

##### ○ミカンハダニ対策

収穫2か月前を目安に、ダニコングフロアブル2,000倍やバロックフロアブル2,000倍等を散布ムラがないよう丁寧に散布します。

##### ○アザミウマ類対策

4月下旬頃からハウスサイドを開放するとともにアザミウマ類の侵入が始まり、果実被害が問題となります。アザミウマ類の侵入を防ぐために、開放部にアルミ蒸着シートや光反射シート織込ネットを設置しましょう。加えてハウス周囲に1～2m幅のタイベックシートを設置するとより効果的です。

アザミウマ類は種類によって効果の高い薬剤が異なるため（表1）、トラップ調査等により種類の確認を行ってください。種類の確認方法がわからない場合は普及センター、試験場等に問い合わせてください。

表1 ハウスミカンのアザミウマ類防除薬剤

アザミウマの種類	薬剤名	IRAC コード*	希釈倍率	収穫前日数
ミカンキイロアザミウマ 及びネギアザミウマ	ファインセーブフロアブル	-	2,000倍	7日前まで
	ディアナWDG	5	10,000倍	前日まで
	スピノエースフロアブル	5	4,000倍	7日前まで
	ウララ50DF	29	5,000倍	7日前まで
ミカンキイロアザミウマ	ダズバンDF	1B	3,000倍	14日前まで
	コテツフロアブル	13	2,000倍	前日まで
	ハチハチフロアブル	21A	2,000倍	前日まで

※殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）が定めた作用機構に基づく分類コード（-は未設定）

<ナシ>

○黒星病対策

開花前後は黒星病の最も重要な防除時期です。薬剤の散布時期を逃さないよう生育状況に注意してください（表2参照）。スピードスプレーヤーで散布する場合は、①全列走行を行い葉の表裏両面に薬液をしっかりと付着させること、②園の外周部など薬液がかかりにくい場所は手散布を行うことが重要となります。また、本病の発生が多い園（特に露地）では、薬剤散布間隔が10日以上空かないように注意してください。

剪定枝や落葉などが園内にあると防除効果が上がりにくいので、早急に処分を行ってください。落葉処理をした園でも樹の周囲や園の隅に落葉が残っている場合があるので、必ず確認して処理を行ってください。

表2 ナシ黒星病防除薬剤

時期	薬剤名	系統名 (FRACコード*)	希釈倍率	収穫前日数	備考
開花直前	スコア顆粒水和剤	DMI(3)	4,000倍	14日前まで	多発生園ではベルコートフロアブルを加用
	アンビルフロアブル		1,000倍	7日前まで	
	スクレアフロアブル	QoI(11)	3,000倍	前日まで	
交配3日後	アクサーフロアブル	DMI(3) + SDHI(7)	2,000倍	14日前まで	発生が問題となっている園ではDMI剤を加用
	ベルコートフロアブル	ヒスジアジン(M7)	1,500倍	14日前まで	
	フルーツセイバー	SDHI(7)	2,000倍	前日まで	
落弁直後	スコア顆粒水和剤	DMI(3)	4,000倍	14日前まで	多発生園ではベルコートフロアブルまたはユニックス顆粒水和剤47を加用
	アンビルフロアブル		1,000倍	7日前まで	
	アクサーフロアブル	DMI(3) + SDHI(7)	2,000倍	14日前まで	

※殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）が定めた作用機構に基づく分類コード

## ○疫病対策

4月下旬から6月にかけて降雨が続くと疫病が発生します。本病は土壌中に生息している病原菌が風雨による土の跳ね返り等で棚上まで菌が運ばれ、新梢や葉の特に柔らかい組織に感染して、新梢や果そう部を枯死させます。

過去に本病が発生した園は土壌中に本病原菌が生息していると考えられるため、強風雨の後には必ずアリエッティ水和剤800倍等を散布します。また、除草作業等は降雨時や降雨直後に行うと土壌とともに菌を跳ね上げてしまうので、晴れた日に行いましょう。

## <ブドウ>

### ○黒とう病対策

萌芽直前（3月下旬頃）から新梢伸長期（5月上旬頃）は重要な防除時期です。萌芽直前はデランフロアブル1,000倍やキノンドーフロアブル600倍を散布されていることと思いますので、展葉5～6枚目頃、8～9枚目頃にも同様の防除を行います。また、薬剤散布後に累積150mm以上の降雨があれば、早急に再散布を行います。

キノンドーフロアブル等は4月下旬から感染が始まる枝膨病にも非常に有効です。

## <キウイフルーツ>

### ○かいよう病対策

発芽後にコサイド3000 2,000倍（クレフノン200倍加用）等を散布します。かいよう病の発生の有無にかかわらずすべての園で必ず防除を行ってください。

また、かいよう病の被害枝は早急に切除、切り口にはトップジンMペーストを塗布します。切除した枝は園内に放置せず、園外に持ち出して土中に埋めるなど適切に処分してください。切除に使用した器具はエタノール70%、次亜塩素酸ナトリウム0.02%等での消毒を徹底します。

## <ウメ>

### ○黒星病対策

展葉初期及び展葉期は黒星病の重要な防除時期です。展葉初期にはトップジンM水和剤1,000倍を、展葉期にはインダーフロアブル5,000倍、ストロビードライフロアブル2,000倍、オーソサイド水和剤80 800倍等を散布します。